



川畑 貴裕 (かわばた・たかひろ)
昭和45年鹿児島生まれ。本学卒業後、横浜市の犬猫病院などを経て平成12年父勝利さんの川畑動物病院に勤務。同14年小動物専門の川畑動物病院分院開院。同31年現在の地に移転し川畑動物医療センターを新たに開院した



川畑 勝利 (かわばた・かつとし)
昭和15年鹿児島生まれ。本学卒業後、薩摩町・始良地区の農業組合に獣医師として入職。35年勤務の後、平成10年福山町に川畑動物病院開院。同27年引退



川畑 晴加 (かわばた・はるか)
平成11年神奈川生まれ。現在、本学生物資源科学部獣医学科で獣医師をめざして学んでいる



川畑(旧姓長屋) 美千代 (かわばたみちよ)
昭和46年埼玉生まれ。本学卒業後、上尾市の動物病院などを経て平成10年貴裕さんと結婚。その後貴裕さんと共に動物病院の開院、運営にあたり共に2女1男にも恵まれた

昭和38年、本学で学んだ川畑勝利さんは鹿児島で獣医師になる。やがて、息子の貴裕さん、その妻の美千代さんも本学で学び、獣医師として動物の治療にあたってきた。さらに現在、ご夫妻の長女である晴加さんも本学獣医学科で獣医師を目指している。3世代全員が獣医師であり桜門人。ご家族の歴史や仕事の魅力をうかがった。

川畑 勝利 さん
昭和38年農獣医学部獣医学科卒業
川畑 貴裕 さん
平成8年農獣医学部獣医学科卒業
川畑 美千代 さん
平成8年農獣医学部獣医学科卒業
川畑 晴加 さん
生物資源科学部獣医学科3年

祖父、父母、娘と続く桜門人一家 獣医師として動物の命に向きあう

K a w a b a t a F a m i l y

畜産農家から獣医師へ。さらなる桜門人も誕生

川畑家は以前、和牛を飼育する畜産農家だった。勝利さんは将来、畜産技術員になろうと考え農業高校に進学したが、学校推薦により本学に入学。獣医師一家の端緒を開いた。

「当時は三軒茶屋にキャンパスがありました（現スポーツ科学部・危機管理学部）。著名な先生方が多くいらして、環境はとても整っていた。勉強についていくのは大変でしたけどね（笑）」

卒業後、獣医師免許を取得し鹿児島に帰郷。農業共済組合の家畜診療所に35年間勤めて退職したが、畜産農家からの強い要望もあり「川畑動物病院」を開院した。

「父の仕事柄、漠然とした獣医師への憧れはありましたが、バイクや車が好きだった事もあり工学部進学を考えていました。しかし、将来は好きな道に進めと言っていた父に『獣医になりたいなら最大限協力するぞ。男なら一浪くらいしても良いぞ』と、言われたことがきっかけで進路を決めた」と貴裕さんは振り返る。

貴裕さんが入学した頃、すでに獣医学科は湘南キャンパス（現生物資源科学部）に移動。6年制となったほか女性の入学者も増え、知りあったのが美千代さんだ。

「私は小さい頃からとにかく獣医になったかったんです。でも、中学時代に獣医学科の倍率を見たら35倍とかで。そこで考えたのが推薦入学。付属校の豊山女子高校に入学し、野



130
創立130周年記念特集
3世代桜門ファミリー



(写真左から) 川畑貴裕さん、次女有以さん、父勝利さん、妻美千代さん、長女晴加さん

望を実現しました(笑)」

結婚後、二人ともしばらくは勤務医をしていたが、平成12年に幼い晴加さんを連れて帰郷。小動物を手がける分院を開院し、勝利さんと3人で診療にあたってきた。

「祖父、両親が獣医でしかも日大出身。『それなら自分も』ってなりますよね(笑)」と晴加さん。昨年、妹の有以さんも本学獣医学科を受験し、合格。今春からは姉妹で獣医師を目指す。

さらに長男の光平さん(中学3年)も獣医師を志しており、まだまだ獣医師一家の裾野は広がりをみせそうだ。

診る動物は変わっても獣医師の役割は同じ

勝利さんが入学したのは昭和34年。当時の獣医学科で学ぶのは家畜の医療で、とりわけ馬に重きが置かれた時代だったという。

「獣医はもともと軍馬を診療するための職業でしたから。しだいに牛、豚などの家畜全般に広がったんです。当時はまだ4年制で、実習などはほとんどなかった。現場で学び続けるしかない時代でした」(勝利さん)

その後、畜産農家の減少に加え、犬猫の飼育が一般的になってくると、獣医師の役割もしだいに変化してきた。

「私と妻の時代は、授業の3分の1くらいが小動物について。それでもまだ家畜の勉強も多かったんです。娘に聞くと、現在は学習内容の多くが小動物。時代の変化を感じます」(貴裕さん)それでも、動物の命を救うという獣医師の役割は変わらない。「動物を苦しみから救ってあげられたこと、飼い主さんに喜んでもらえることが一番のやりがい」と3人は口をそろえる。

「ときには救えない子がいるのも事実。それでも、同じ飼い主さんが新しい子をつれてまた診察にきてくださる。それも



入院や高度な動物医療が可能とあって霧島市内外から飼い主さんが訪れ、一日に100例を診察することもあるという

大きな喜びです」(美千代さん)

順調にいけば、3年後には獣医師になる晴加さん。「人に負けない技術を身につけなさい」(勝利さん)「飼い主さんの気持ちに寄り添う獣医師に」(貴裕さん)「大学の先生や同級生とのつながりも大切に」(美千代さん)と3人の先輩からエールを送られた。

「治療の技術だけではなく、地域のみなさんとの交流や、飼い主さんを大切にする姿勢は心から尊敬しています。獣医師になったら何年かはどこかで修行するつもりですが、いずれは帰郷して両親とともに診察にあたりたい。その日を目標に頑張ります」(晴加さん)

K a w a b a t a F a m i l y



貴裕さんは大学時代バイクサークルに所属し全国を放してまわった



長女の晴加さんは小学校3年生の時、学校の課題で「日本一の鹿児島県牛～おい!んは牛のお医者さん～」と題し、祖父勝利さんの獣医師としての生活をレポート・発表し、鹿児島県で特選に選ばれた



勝利さんが通った当時の農獣医学部(世田谷区下馬)の正門



勝利さんが福山町に川畑動物病院を開院した頃



美千代さんとは在学中から交際し、共通の趣味である車でよくドライブに行っていた



大学時代の仲間が川畑動物医療センターに集い旧交を温める



手術室



CT検査室



スタッフの皆さん

川畑動物医療センター

平成10年、勝利さんが主に家畜の診察を行う川畑動物病院を開院。翌々年、実家に戻った貴裕さん・美千代さん夫妻が同院で小動物の診療をしながら開院準備にあたり、平成14年に小動物専門病院として川畑動物病院分院を開院した。昨年4月、拡張のため新病院を建築し川畑動物医療センターに改称。現在、獣医師8人のほか全20人のスタッフで運営している。マルチスライスCT装置をはじめ、最新鋭の医療機器を多数備えているほか、待合室から様子が見えるガラス張りの診察室など現代的な意匠も特徴。動物、飼い主ともにリラックスできる空間が築かれている。インフォームド・コンセントを重視し、「人と動物にやさしい動物病院」を目指している。



現在の川畑動物医療センター



平成14年に開院した旧分院

130

創立130周年記念特集